

サージトロンによる日帰り手術

▶ サージトロンは電気メスの進化型

サージトロンは最新型の高周波ラジオ波メスで切開・凝固する器械であり、従来から手術で使われている電気メスよりもはるかに高い周波数（高周波ラジオ波）により、皮膚や粘膜を切開し、深部を凝固できる。周波数が高いため、目的とする部分だけをピンポイントに切開・凝固することが可能なため、従来の外科的治療のような痛みや出血がほとんどない。また、周囲に熱を発生させることがなく、電極を自在に曲げて体内

に挿入できるので、レーザーでは手術が難しかった例でも手術が可能になった。

一度だけの治療でも80%の有効率があり、薬の量や通院回数が減ること、鼻閉が治まって集中力が増すことなどが期待できる。長期にわたる薬剤の服用を避けたい方、薬剤を使用しても鼻が通らず鼻声でつらい方、妊娠などにより薬を服用できない方には特に有用であると考えられる。

Case 1 花粉症・鼻アレルギー・鼻づまりのサージトロン手術

アレルギー性鼻炎のくしゃみ・鼻汁・鼻閉に対しては先ず薬剤療法を行うが、薬剤を用いても症状が良くならない、鼻閉が軽快しない例が少なくない。

薬剤以外の治療法として注目されているのが手術的治療法である。

手術的治療法では、鼻粘膜を焼灼してアレルギー反応を起こしにくくすることに主眼が置かれてきて、レーザーやアルゴンプラズマなどの手術器械、トリクロール酢酸などの薬剤を用いた方法は、いずれも鼻粘膜の表面を変性させることによってアレルギー反応を起こしにくくする。しかし、これらの方法では、既に肥大してしまっている鼻の粘膜下組織を改善することはできないので、鼻閉はなかなか改善しない。

サージトロンでは微細電極を粘膜から奥深く刺入できるので、表面を変性させる作用に加えて、粘膜下組織を焼灼し縮小させることが可能である。その結果、アレルギー反応を起こしにくくするだけでなく、空気の通るスペース自体が広がるので鼻閉を改善させる効果が高い。

サージトロン手術は、局所麻酔の時間も含めて30分程度で完了する。まず麻酔薬のついたガーゼを鼻内に入れて20分ほどしてから、鼻粘膜に電極を刺入して通電する。通電時間は3～10秒を3～8回くらいで、痛みはほとんどない。その後止血を確認し、10分程度休んでから帰宅してもらう。

手術後の数日は鼻粘膜が反応性に腫れるため、鼻閉が悪くなったように感じるが、さらに数日すると次第に鼻が通ってきて手術前より鼻閉が改善する。

この一過性の鼻閉悪化のことを考えると、手術は両側を一度に行うよりも、二週間以上空けて片側ずつ行うのが理想的である。



A：下鼻甲介後方



B：下鼻甲介焼灼



C：焼灼後全体像



D：中鼻甲介焼灼



バイポーラ鼻腔用
探針（固定型）
I6/JXE, IEC-I6D

筆者略歴

経歴

都立国立高校、三重大学医学部卒業
東京大学附属病院
竹田綜合病院
国立東静岡病院
都立墨東病院耳鼻咽喉科医長
平成16年10月よこやま耳鼻咽喉科開設

資格

日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本気管食道科学会専門医
厚生労働省認定補聴器適合判定医
身体障害者福祉法指定医
東京大学医学博士